

山口県経済部『兎の飼ひ方』（鍛冶利吉文書 154）

うさぎ

## ウサギと戦争～毛皮に、肉は缶詰に～

平成 16 年（2004）時点のデータによれば、山口県内では 22 戸の農家が 106 羽、県内 5ヶ所の農林事務所が 2,171 羽のウサギを飼っていました。

ところが、昭和戦前期には、県内で 6,000～7,000 戸もの農家が養兔業に従事し、多い時には 36,000 羽ものウサギが飼育されていました。

### 1. 近代の養兔業

ウサギ（家兔）が日本に輸入されたのは明治維新以後です。当初は愛玩用が主でしたが、日清戦争（明治 27～28〈1894～95〉）、日露戦争（明治 37～38〈1904～1905〉）の際には、毛皮が防寒用として軍需品に、肉は缶詰に利用され、畜産業のひとつとしてウサギの飼育がさかんになりました。

第一次世界大戦（1914～19）中には、ウサギの肉・毛皮需要が増加し、輸出も行われるようになりました。

戦争が養兔業の追い風となったのです。

【参考】山口俊策「時局と養兔業」（『地理』vol.2 1939）

### 2. 山口県内での養兔業

山口県内でウサギの飼育がさかんになるのは昭和になってからです。

第一次大戦後、大正後期から昭和初年にかけて、経済恐慌により農村不況が深刻になると、山口県は、大森望知事の強い指導の下、その対策のひとつとして、農家にさまざまな副業を奨励します。畜産関係では、肥牛、養豚、養蜂、養鶏とらんで養兔も奨励されました（『山口県政史』）。

山口県経済部『兎の飼ひ方』（昭和 12 年 12 月刊行）

山口県庁の経済部（経済更正課・農務課・商工課・水産課・林務課・土木課・耕地課で構成される部局）が、兔皮の増産のため、ウサギの飼育方法をまとめ刊行した小冊子です。

その緒言には次のようにあります。

近時兔毛皮の需要激増し殊に最近軍需品として重要視せらるゝに至り非常時局に直面する今日之が増産は愈々緊切の度を加えつゝあり

本県に於ては之が実情に鑑み国の施設に順応し曩に兔毛皮増産奨励施設を計画し挙県一致速に之が増産に邁進せられむことを切望するものなり

本書は今後家兔飼養に従事せむとする者の参考に資せむが為刊行せるものなり

昭和十二年十二月

山口県経済部

### 3. 昭和戦前期のウサギ飼育数

当館には、昭和戦前期、副業奨励を担当した県庁各課の文書「副業一件」が遺っており、その中に、県内のウサギ飼育数のデータがあります。

大正 15 年（1926）時点では、まだ、点的に養兔業が行われているに過ぎませんでしたが、昭和 2 年（1927）以降、県が副業奨励に力を入れると、養兔業もさかんとなり、昭和 9 年調査では戸数 6,300、飼育ウサギ数は 36,000 余、昭和 11 年では戸数 7,100、飼育数 28,000 余を数えました。

全国的にみても、また、県内の他の家畜数と比べても、大きな規模ではありませんが、現在では考えられないほど、多数のウサギが県内で飼育されていたのです。

【昭和 9 年山口県内の養兔業者戸数および飼育数】

	飼育戸数				飼育頭数 計
	10頭未満	10～50頭	50頭以上	計	
下関市	8	2	2	12	340
宇部市	156	13		169	440
山口市	7			7	214
萩市	25	6	2	33	606
徳山市				0	0
大島郡	517	81	6	604	3,675
玖珂郡	1,675	151	4	1,830	8,534
熊毛郡	254	21		275	1,392
都濃郡	767	35	4	806	8,139
佐波郡	404	25		429	1,631
吉敷郡	556	57	2	615	2,805
厚狭郡	206	21		227	1,375
豊浦郡	237	63	4	304	2,412
美祢郡	347	26	1	374	1,740
大津郡	39	1		40	116
阿武郡	530	57	1	588	2,642
計	5,728	559	26	6,313	36,061

重要文化財山口県行政文書「副業一件」（県庁戦前 A 農業）より作成

### 4. 『兎の飼ひ方』－戦争とウサギ－

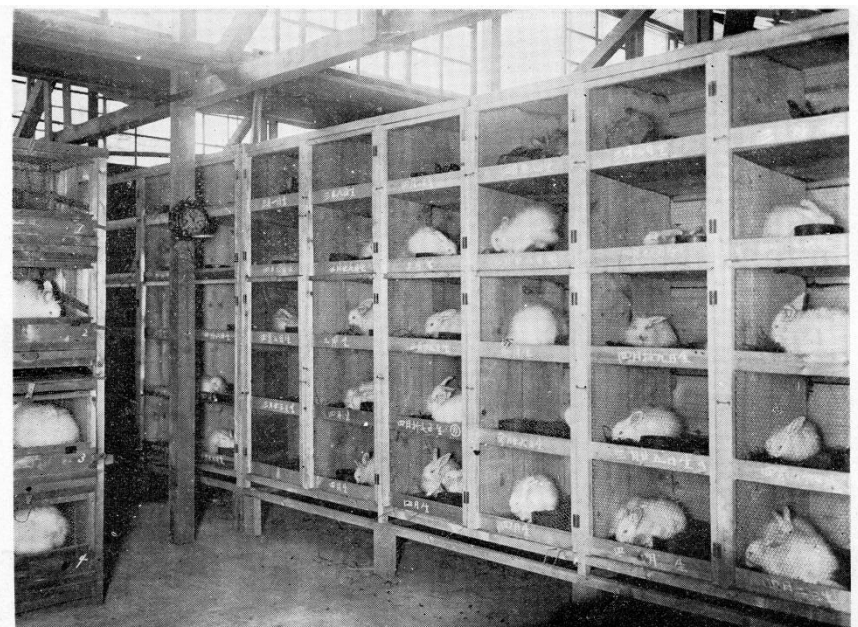
中国大陸での戦争が激しくなるにつれ、軍需物資としてのウサギ皮の需要がいつそう高まっていきます。

日中戦争が開始された昭和 12 年（1937）12 月に、山口県が『兎の飼ひ方』という小冊子を刊行しています。軍需用品としての毛皮が重要視され、増産の緊急度が増していることから、兎飼育従事者の参考とするため刊行したものです。ウサギの種類、繁殖方法、飼育管理、病気対策がまとめられるとともに、飼育箱の図面も収録されています。

戦争の激化が、軍需品としてのウサギの重要性を高めていったのです。

昭和 16 年に太平洋戦争が始まると、需要の増加、増産奨励にもかかわらず、飼育数は 12,000 頭前後に減少したといえます（山口県経済部特産課「農村副業のしるべ」1950 経済 23）。

【ウサギの飼育舎風景】



帝国副業奨励會の兎舎内部

帝国副業奨励會編『アンゴラ兎の飼育法』（昭和 6 年）より引用  
（県立山口図書館蔵）